

# 研究者の成果を広く伝えることを目指して アルビオン研究者支援制度による書籍刊行

>>>2017. 2. 2

株式会社アルビオン(東京・中央区、小林 章一 代表取締役社長 )は、メセナ活動の一環である「アルビオン研究者支援制度」により、九州大学 生体防御医学研究所 エピゲノム制御学分野 助教 鶴木元香著『生まれつきの女王蜂はいない』を刊行いたしました。

アルビオン研究者支援制度とは、様々な分野で優れた研究を行っている研究者の発表を書籍化することで、その成果を広く世間に伝えることを目的とし、メセナ活動の一環として2012年に創設いたしました。日本の医療業界の権威らによる選考委員が厳正な審査を行い、社会的な意義が大きいと認められた研究に対してアルビオンが出版を支援します。

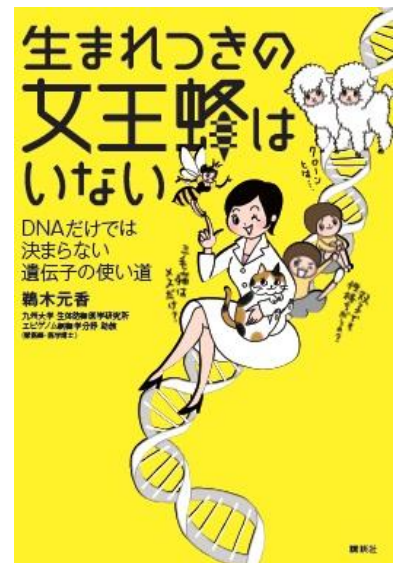
過去には「おしゃべりな細胞たち― 再生医療入門すぐその未来を話そう」(東京女子医科大学先端生命医学研究所教授大和雅之著)を刊行しています。

## 【著者紹介】

鶴木 元香(うのき もとこ)

九州大学 生体防御医学研究所 エピゲノム制御学分野 助教(獣医師・医学博士)

麻布大学獣医学部生の時に雌性発生するギンブナの研究を行い、大学院から発癌機構の研究を始め、九州大学に異動するまでの11年間、東京大学医科学研究所、米国癌研究所(NCI)、理化学研究所で癌研究に従事。その間にUHRF1をDNAメチル化を認識するタンパク質として世界に先駆けて同定した。現在は、エピジェネティック発現制御機構に関わるタンパク質の解析から、エピジェネティクスにより深い理解を目指している。



書籍名 [生まれつきの女王蜂はいない](#)  
[DNAだけでは決まらない遺伝子の使い道](#)

著者名 鶴木元香

発売日 2016年11月29日

定価 本体1,200円(税別)

発行所 株式会社 講談社